

# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

## 概 要

部 長：篠 原 尚 吾（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

総合聴覚センター長：内 藤 泰（耳鼻咽喉科・総合聴覚センター）

ス タ ッ プ：6名

専 攻 医：4名（うち1名は産休中 また他に1名がプログラムにより他院で研修中）

非常勤医師：2名

専 門 外 来：腫瘍、音声、人工内耳・難聴、めまい

専門医取得のための研修指定学会：日本耳鼻咽喉科学会、日本気管食道科学会、日本頭頸部外科学会、日本内分泌外科学会

各種指導医・専門医・認定医数：日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医（5名）、日本耳鼻咽喉科学会専門医（6名）、日本気管食道科学会専門医（1名）、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医（1名）、日本内分泌外科学会専門医（1名）、日本がん治療学会暫定指導医（1名）、日本がん治療学会認定医（1名）、日本耳科学会認定耳科手術暫定指導医（3名）

2019年の診療及び学術実績

（2020、2021年はコロナの影響が強いので、2年前のデータを示します）

### 1) 年間手術数：1306例

鼓室形成術：101例、人工内耳埋込術：65例、鼻内内視鏡手術：86例、扁桃摘出術：164例、甲状腺・副甲状腺手術：67例、咽喉頭悪性腫瘍手術53例、口腔悪性腫瘍手術：36例、喉頭微細手術：63例、良性唾液腺腫瘍手術：55例、甲状軟骨形成術：7例

### 2) 学会報告

国際学会：9題（第12回アジア太平洋人工内耳と関連科学シンポジウム(APSCI2019) 5題、European Society of Gastrointestinal Endoscopy (ESGE) Days 2019 1題、Combined Otolaryngology Spring Meeting 2019 2題、)

うち、専攻医（1名）が筆頭演者のもの：1題

国内学会：22題（日本耳鼻咽喉科学会総会 2題、日本頭頸部癌学会 6題、日本頭頸部外科学会 2題、日本聴覚医学会 3題、日本耳鼻咽喉科臨床学会 2題など）

うち、専攻医が筆頭演者のもの：5題

### 3) 論文発表

英文論文6編（Auris Nasus Larynx、Acta Oto-Laryngologica Case Reports）

うち、もと専攻医（1名）が筆頭著書のもの：1編

和文著書・論文7編

## 特 徴

当科は耳鼻咽喉科・頭頸部外科において本邦を代表する研修施設であり、日本耳鼻咽喉科学会、日本気管食道科学会研修指定病院である。また、日本頭頸部外科学会、日本内分泌甲状腺外科学会の研修指定病院、日本耳科学会の耳科手術認可研修施設である。

専門性の高い診療が行われていることに加えて、当院に高度の救急・救命センターも設置されているため、圧倒的に多数で多彩な症例が経験できる。当科の研修プログラムでは、臨床例の診療と臨床カンファレンス、体系的なサブスペシャリティ・シリーズレクチャーを組み合わせしており、専攻医在籍期間中に耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本知識、一般的外来診療（診察、検査、外来処置）と基本的手術手技が習得できる。当科の部長は学会で教育講演等を多数行っており、指導医は全員、1回以上の更新を経た専門医で、全国学会でシンポジストやパネリストを担当するエキスパートである。

外来診療では高度難聴、頭頸部腫瘍、中耳疾患、めまい疾患、音声疾患に力を入れ、専門性の高い診断と治療を行っている。手術については、本邦トップレベルの専門的手術と診療科としての必須基本手術がバランス良く研修できる。学術活動では、学会発表を積極的に行い、臨床論文の執筆、投稿を指導している。また当科は、海外との交流として国際学会参加だけでなく、当科のフェローやスタッフからオーストラリア・メルボルン大学耳鼻咽喉科、米国・トマスジェファーソン大学キンメル癌センター、米国・ピッツバーグ大学ヒルマン癌センターへの留学派遣実績があり、常に世界レベルの臨床維持に努めている。

また、2021年4月から、難聴の手術やリハビリテーション、教育との連携、臨床研究を通じて人工内耳小児や高齢難聴者の高度医療を展開する「総合聴覚センター（Comprehensive Ear and Hearing Center）」を創設した。高度難聴の医療は保険診療の範囲内だけでは不十分であり完結できない。従来の難聴医療の枠組みを越えて、難聴小児にとって生涯の拠り所となり、高齢者の聴覚と認知機能を守る新たなセンターとして運営して行く。

経験症例内容、症例数、指導体制、いずれにおいても、将来の専門医取得に向けて、万全の研修が可能である。

## 週間スケジュール

		午 前	午 後	夕
月	手 術	めまい外来（隔週）	部長回診 総合聴覚センター外 来	カンファレンス、抄 読会、学会予演会
火	手 術		頭頸部腫瘍外来	
水	手 術			
木	手 術		人工内耳・総合聴覚セ ンター外来	
金	手 術		音声外来（隔週）	

## 専門研修プログラム

当院で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門研修には2つの方法があります。

① 当院が基幹病院として公開している臨床研修プログラムに応募する。

定員2名募集します。臨床研修プログラム4年のうち3年を当院で、あとの1年を京都大学・兵庫県立尼崎総合医療センター・赤穂市民病院のいずれかの病院で研修していただくプログラムと、京都大学で臨床研修を開始して、日赤和歌山医療センターや大阪赤十字病院など関西の主要病院で研鑽を積み、4年目を当院で研修していただくプログラムの2種類があります。救急疾患を含めてあらゆる耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患が質・症例数とも豊富であり、充実した研修をしていただければと思います。

② 京都大学の臨床研修プログラムに参加する。

当院は京都大学を中心とする臨床研修プログラムの連携病院としても登録しており、大学病院から1-2年間研修に来ていただくことも可能です。ただし、当院を基幹病院として募集した人員で定員が埋まってしまった場合は、大学からのプログラム参加者に制限を設けますので、当院での研修は難しくなることがあります。

神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : [http://chuo.kcho.jp/recruit/late\\_resident](http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident)

## 見学等問い合わせ先

内藤 泰 (総合聴覚センター)

篠原 尚吾 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : [kobejibika@kcho.jp](mailto:kobejibika@kcho.jp)